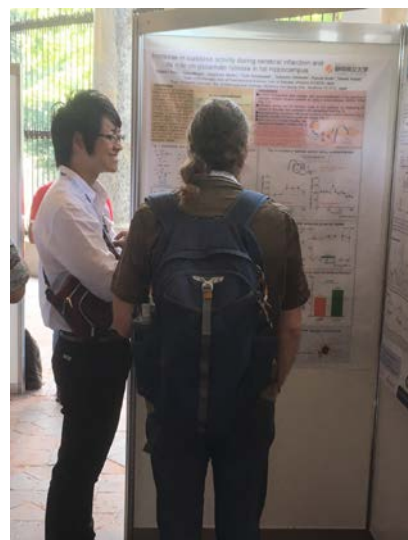


## 複合糖質国際シンポジウムでのポスター発表

2019年8月25日から31日にイタリアのミラノで開催された25th International Symposium on Glycoconjugatesに参加し、「Increase in sialidase activity during cerebral infarction and its role on glutamate release in rat hippocampus (脳梗塞時のシアリダーゼ活性の増加とラット海馬のグルタミン酸放出におけるその役割)」という発表題目でポスター発表を行いました。本学会では、糖質に関する様々な研究を行っている研究者が世界中から集い、基礎研究から臨床応用研究まで口頭発表で128演題、ポスター発表で292演題もの研究発表が行われました。そのため、自身の研究に応用できそうな内容の発表も多く、最新のシアリダーゼやその阻害剤等に関する知識を得ることができました。

私は今回、ラットにおいて脳梗塞が発症した直後にシアリダーゼ活性がどのように変化するかについて、*in vivo* マイクロダイアリシス法を用いて確認したところ脳梗塞時にはシアリダーゼ活性が上昇することや、シアリダーゼ阻害剤を脳に灌流させることで細胞外グルタミン酸量が増加することを見出し、これらの結果からシアリダーゼがグルタミン酸放出を抑制的に制御しており、脳梗塞時に引き起こされる神経過剰興奮に伴うグルタミン酸の過剰放出に対し、シアリダーゼは抑制的に働くことで脳梗塞による脳傷害を抑えているという内容を発表しました。発表を聞いてくださった方の中には、私の行った実験だけで本当にそのことが言えるのか、使用した薬剤による予期せぬ異なる影響によってこの結果が得られただけではないのかといった厳しい質問や指摘をしてくださる方もおり、自身の努力不足や考えのいたらなさを痛感しました。そして、それらの質問にどのように答えたら良いのか、解釈の祖語を無くすにはどのように説明をすると良いのか等を考えることで、自身の発表能力向上の糧となる経験をすることができました。

今回の学会で得られた異なる視点からの意見やアドバイスを基に、今後の研究をさらに正確で意義のあるものにしていきたいと思います。



薬食生命科学総合学府 薬科学専攻

博士前期課程2年 生化学教室

狩野 孝裕